

【樹木の部屋】

アシウスギ (スギ科スギ属 *Cryptomeria japonica* var. *radicans*)

和名：アシウスギ(芦生杉) **別名**：ダイスギ(台杉)、ウラスギ、サワスギ

英名：

マツ目 常緑針葉高木

原産地：日本

花言葉： **花色**：



← 写真-1 アシウスギの台仕立て

撮影日：2020年04月25日

撮影場所：奈良市郊外にて

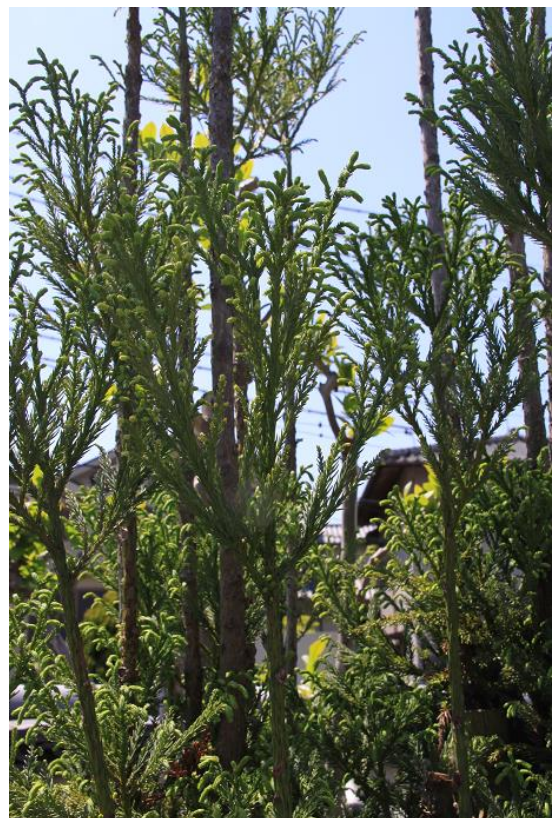
撮影者：M さん

↘ 写真-2 台仕立ての取り木部分

撮影日：2020年04月25日

撮影場所：奈良市郊外にて

撮影者：M さん



↓ 写真-3 アシウスギの葉

撮影日：2020年04月26日

撮影場所：桜井市(奈良県)郊外にて

撮影者：M さん



→ 写真-4 アシウスギの新芽

撮影日：2020 年 04 月 26 日

撮影場所：桜井市(奈良県)郊外にて

撮影者：M さん



アシウスギは日本海側に分布するスギの変種で、森林面積が狭いという京都北山のきびしい自然条件のもとで生育し、根元近くから数本の幹が分かれたものを栽培して育てた、世界的にも貴重なスギです。ダイスギ(台杉)とは、アシウスギの台仕立物と呼んだ名前です。

かつては建築用材として利用されていたそうですが、現在は、その細い優美な容姿から、もっぱら庭園観賞用に使用されています。

室町時代、京都北山地方は関西方面の木材の供給元として、多くのスギが栽培されていたそうですが、限られた森林面積のため、新しい植林場所が確保できなかったそうです。そこで考案されたのが台仕立てという育苗技法だそうです。

植林後 5～6 年で一番株下の枝だけを残すように最初の枝打ちを行います。その後、主幹をカットし、1 本の幹から 3～5 本の立木を伸ばすという方法を繰り返して 1 本の杉から取り木のような形で、適度なサイズの建築材を確保し続けると言うものです。しかし、どんな杉でも台杉仕立てができるわけではなく、真っ直ぐに伸び、しっかり育ち続けてくれる遺伝子を持った木として現在では「シロスギ」が用いられているそうです。

その独特の形状ゆえに、同じ形のものはないと言われるぐらい、仕立て方や手入れの方法によって千差万別の表情を見せてくれるので、現在では幅広い分野の庭園造りに使用され、より個性的な庭園美を楽しむことができます。

< ちょっと一言 >

* オモテスギ：太平洋岸に生息する杉。

・ 種子からのみ新芽が出る。

* ウラスギ：日本側に生息する杉。

・ 枝が垂れ下がり地面に枝が触れた所から着地して根を下ろし、そこから新芽を出し独立樹に成長する。

* 芦生杉：京都府美山町芦生の地名がついた京都ゆかりの杉です

* 花背(はなせ)の台杉

京都市登録天然記念物(京都市左京区花背原地町 井ノ口山)